

L^AT_EX でラムダ式を記述するときには空白を調整したほうがよい

調整しない場合以下のようなになる

$\lambda x : T.e$

`\lambda x:T.e`

これは $\overline{\lambda x : T.e}$ というまとまりにみえてしまう

論理的には $\overline{\lambda x : T.e}$ という構造である
(T 型の引数 x を受け取って e を返す関数、
という意味なので、 x と T の関係は T と e
の関係よりも近い)

T_EX がこのように空白を入れるのは、 $:$ が
関係演算子であり、関係演算子の左右には
大きめの空白 (thick space) を入れるという
規則になっているためである
(詳しい規則は T_EXbook に載っている)

調整しない場合

$\lambda x : T.e$ `\lambda x:T.e`

：を関係演算子でなく、普通の文字扱いにすると空白がなくなる

$\lambda x:T.e$ `\lambda x\mathord{:}T.e`

`\mathord` を使わずに、ブレースで括るだけでも同じ効果がある

$\lambda x:T.e$ `\lambda x{:}T.e`

x と T よりも T と e の関係のほうが離れているので、 e の直前に小さな空白 (thin space) を入れることも考えられる

これは $.$ を関係演算子でなく、punct にすることで可能

$\lambda x:T.e$ `\lambda x{:}T\mathpunct{.}e`

(もちろん、`\,` を使う手もある)

各文字の種類を調べるには `\showlists`
が使える

```
\documentclass{article}      % latex t.tex
\tracingonline1              ...
\showboxdepth10000          ### math mode entered at line 6
\showboxbreadth10000        \mathord
\begin{document}             .\fam1 ^^U
$ \lambda x:T.e \showlists $ \mathord
\end{document}               .\fam1 x
                              \mathrel
                              .\fam0 :
                              \mathord
                              .\fam1 T
                              \mathord
                              .\fam1 :
                              \mathord
                              .\fam1 e
```

(もっとわかりやすいやり方は欲しい)